

絵に描かれた昔の岩滑^{やなべ}

ここに展示している 8 枚の絵は、新美南吉の生家の道向かいに住んでいた石垣藤九郎^{いしがきとうくろう}さん（大正 6 ～平成 11）が描いたものです。藤九郎さんは、南吉の 4 学年下で、南吉の日記にも度々登場するなど親しい間柄でした。戦後は雑貨店を営みながら、長く市議会議員を務め、新美南吉記念館の建設にも尽力しました。

絵は、南吉の生家や作品舞台になった社寺など、南吉のふるさと岩滑の昭和初期の姿が描かれています。昭和 62 年に南吉生家が復元公開されたことをきっかけに南吉ファンや観光客が岩滑を訪れるようになり、そうした見学者に南吉が生きた時代の岩滑の様子をわかりやすく説明しよう、と藤九郎さんが昔を思い出しながら描きました。

今年は平成 6 年に新美南吉記念館が開館して 30 周年となります。新美南吉とそのふるさとについて語り継ごうとした先人の思いを感じながら、絵をご覧いただければ幸いです。

令和 6 年 4 月

新美南吉記念館





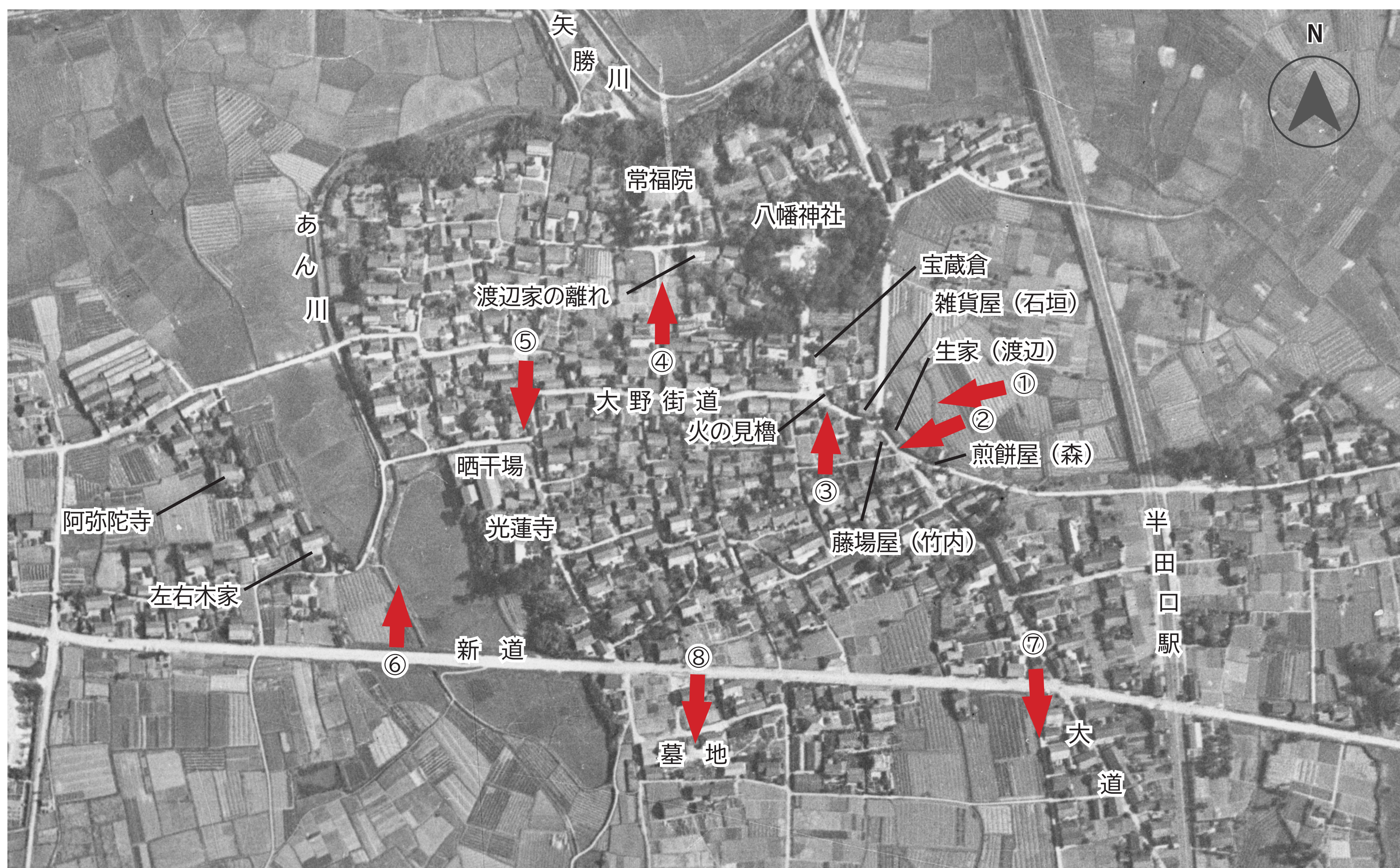
南吉生家の見学者に絵を見せながら説明する石垣藤九郎さん（絵を貼った看板の右側）



晩年の石垣藤九郎さん（友好都市交流事業で訪れた中国にて）

ママ
遠九郎君は今朝はじめて花子に仕事をさせました 花子というのは仔牛の名前ですが
しかし花子は僕の家の前まで来るともう動かなくなってしまいました これじゃ町
まで行って汲取りして来るのはとてもむづかしいといって 花子はまた小屋へつれ
もどされました 駄々をこねるといいこともあるものです

石垣藤九郎さんについて書かれた南吉の手紙（友人の歌見誠一宛・昭和16年）



絵に描かれた場所と方向（昭和23年に米軍が撮影した岩滑の航空写真を使用）